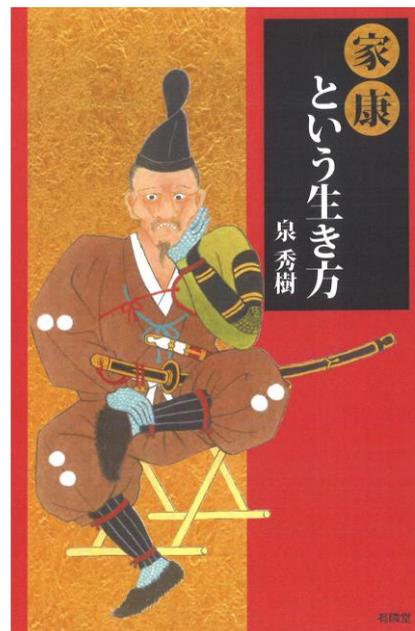


家康は生涯の危機にどのように対処したのか？ 分かりやすく解説  
**有隣堂の最新刊『家康という生き方』1月30日発売**  
2023年大河ドラマ「どうする家康」を楽しむ関連書

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、1月30日、当社オリジナル出版物の最新刊として、『家康という生き方』を発売します。著者は、静岡県浜松市生まれの作家・泉秀樹氏。本書では、徳川家康の生涯12の危機にどのように対処したのか、その生き方を多くの史料に基づきながら、著者ならではの視点で分かりやすく描いており、2023年NHK大河ドラマ「どうする家康」を楽しむための関連書としておすすめの一冊です。

- 書名：『家康という生き方』
- 著者：泉 秀樹
- 出版社：有隣堂
- 定価：税込1,320円（本体1,200円＋税）
- 体裁：新書判・本文272頁
- 発売日：2023年1月30日予定
- 取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店



**著者：泉 秀樹（いずみ ひでき）**

1943年静岡県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。産経新聞、三田文学などで記者・編集者を経て、作家生活に入る。1973年に小説『剥製博物館』で新潮新人賞を受賞。歴史に関する著書多数。J:COM「泉秀樹の歴史を歩く」の原作者・MCを務める。藤沢市在住。著書『歴史を歩く 深掘り神奈川』PHP文庫、『一駅一話 江ノ電沿線 歴史さんぽ』有隣堂ほか。

**内容**

2023年の大河ドラマは「どうする家康」である。家康は織田信長、今川義元、武田信玄、豊臣秀吉、小田原北条氏等数多くの戦国武士達と関わり、翻弄され、戦いながら、天下人となった。それは、「三河一向一揆」、「三方ヶ原の戦い」、「伊賀越え」など、幼少期から数多の危機に遭遇し、難題を克服した結果である。本書は、家康の生涯を立志編と野望編の2部構成とし、家康にとっての危機を、節目となった年代とともに12の章に分け、多くの史料に基づきながら、浜松出身で数多くの歴史書を手掛けた著者ならではの視点で描き解説するものである。

目次

松平郷と岡崎城

第一部 立志編

- 一. 拉致誘拐と人質時代 六歳
- 二. 桶狭間の合戦と大高城の兵糧入れ 十九歳
- 三. 清洲同盟と一向一揆 二十三歳
- 四. 金ヶ崎の退き口 二十九歳
- 五. 三方ヶ原の合戦 三十一歳
- 六. 築山事件 三十八歳

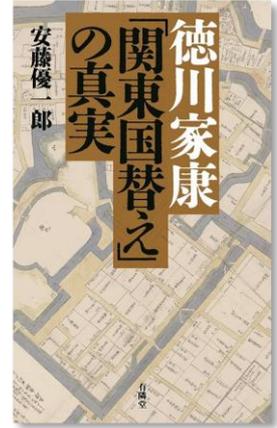
第二部 野望編

- 一. 伊賀越え 四十一歳
  - 二. 小牧・長久手の戦い 四十三歳
  - 三. 石川数正出奔事件 四十四歳
  - 四. 関東移封 四十九歳
  - 五. 関ヶ原の合戦 五十九歳
  - 六. 大坂の陣 七十四歳
- あとがき

『徳川家康「関東国替え」の真実』 安藤 優一郎：著 1,078 円(税込)

新書判 2022 年 11 月新刊

秀吉の小田原攻めで滅亡した、北条氏の旧領を家康は与えられた。統治への大きな不安を抱えていたが、転封を受け入れ、江戸城と城下町を整備して、いかに天下人へと至るステップとしたのか。著者は、江戸をテーマとする執筆、講演活動等で活躍中の歴史家・安藤優一郎氏。本書では、徳川家康のリーダーシップに注目し、「関東国替え」という一大プロジェクトを成功させ、天下人へと上り詰めたステップを追う。



『戦国大名北条氏』 下山 治久：著 1,100 円(税込)

有隣新書 73 2014 年 3 月刊のロングセラー

戦国期は北条早雲の伊豆国侵攻に始まる。早雲と子の氏綱は相模国を平定し、氏康・氏政の代には伊豆・相模・武蔵三か国を本拠地とする戦国大名となった。北条氏は周辺の上杉謙信、武田信玄などと領土争奪戦を繰り広げ勢力圏を拡大するが、五代の氏直が、全国平定を目差した豊臣秀吉との小田原合戦に敗れて滅亡する。

本書は早雲から氏直にいたる五代の興亡の歴史を概説し、当主や一族、家臣たちの実像を明らかにする。



●有隣堂のオリジナル出版物のご紹介

有隣新書 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho>

単行本 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>

●情報紙『有隣』について

1967 年 12 月創刊の情報紙。奇数月 1 日発行。

各界の一流執筆者による、神奈川の歴史・文化にちなんだテーマや、文学・芸術・時事問題などに関するエッセイ・論説を掲載。

WEB 版はこちらから <https://www.yurindo.co.jp/yurin/>

---